

経営比較分析表（平成30年度決算）

北海道 登別市

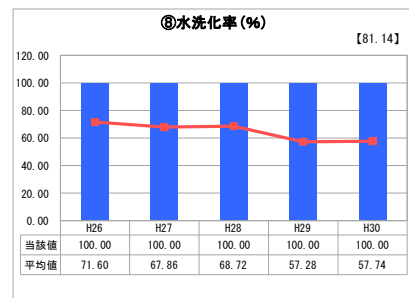
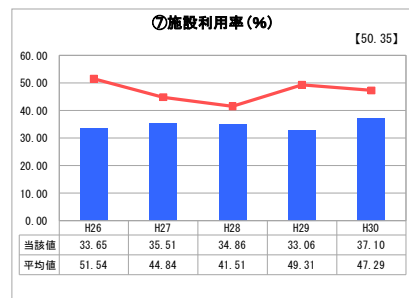
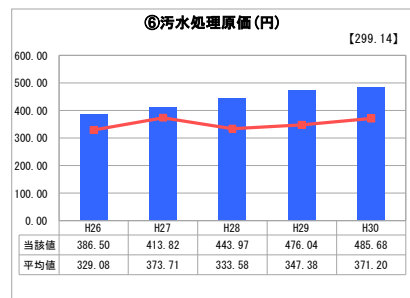
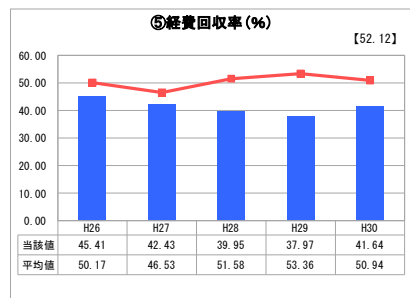
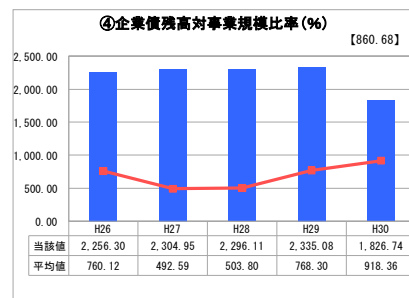
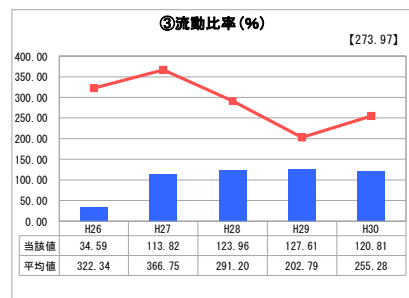
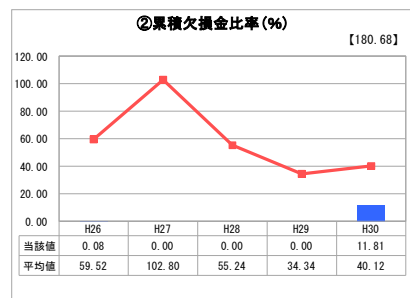
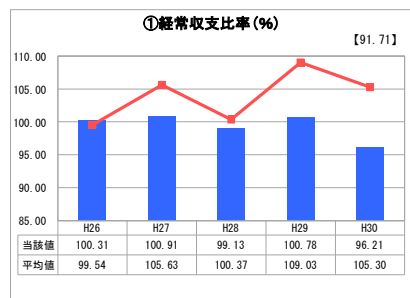
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	個別排水処理	L3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ [※] 当たり家庭料金(円)
-	4.56	0.53	100.00	4,168

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,395	212.21	228.05
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
252	197.23	1.28

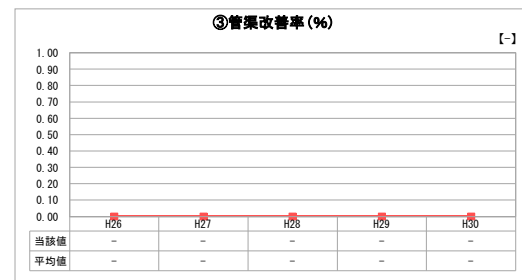
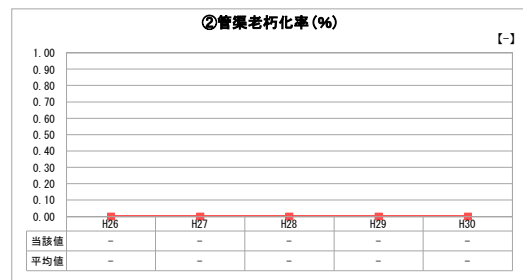
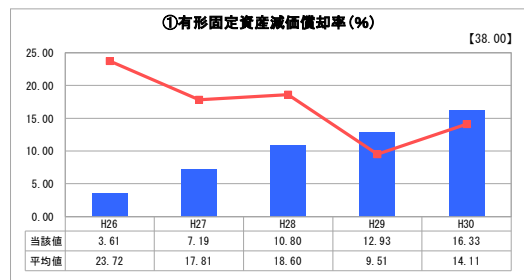
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、前年度から悪化し、100%を下回っている。これは、浄化槽の維持管理に係る経費が増加していることが主な要因となっている。経費回収率についても、100%を大きく下回り、類似団体平均値と比べても低くなっているが、平成30年1月1日に実施した使用料の改定により、前年度数値から若干ではあるが改善している。

汚水処理原価については、本事業の特殊性から一定程度の増量は致し方ない面はあるものの、類似団体平均値に比べて高い状況にあり、経常収支比率等が低下する一因となってきたことから、浄化槽管理の効率化などについて検討する必要がある。

企業債残高対事業規模比率は、改善傾向にあるものの、依然として類似団体平均値を大きく上回っており、事業規模に比して債務残高が過大な状況にある。本事業は、汚水処理の効率性を確保する観点から、公共下水道を補完する役割を担っており、数値のある程度の悪化は致し方ない面があるが、引き続き投資のあり方などに留意しながら事業を進めることが必要である。

流動比率は、類似団体平均値に比べて低いものの、100%を上回っている。また、流動比率の大部分は企業債であり、企業債を除けば類似団体平均値を大きく上回ることになる。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は年々高くなっているが、平成29年度以降は類似団体平均値を上回ることとなった。当市の事業開始は平成16年と比較的遅いものの、施設の老朽化が徐々に進んでいることを示している。

なお、本事業は管渠の整備を伴わないため、管渠老朽化率及び管渠改善率については、指標の数値はない。

全体総括

本事業は、公共下水道を補完する役割を担っており、一定程度効率性が低くなることは致し方ないものの、経常収支比率、経費回収率、汚水処理原価等に留意しながら、できる限り効率性を高める取組が必要である。

今後は、使用料の改定を行ったことと併せ、維持管理費の縮減を図ることにより、支出面からも経営の効率化を高めることが必要である。

また、事業開始が比較的遅いため、更新需要が本格化するまでには若干の時間的猶予があるが、今後20年程度の間に更新需要が本格化することから、中長期的な視点に立って、更新投資を賄うための財源のあり方を検討する必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。